

伊藤 正子 議員



問 高齢者支援の現状について

答 互いに支え合うまちづくりを推進していく

町の人口が減り始める一方、高齢者の割合が急増し、地域も大きな変貌を遂げている。地域で支え合う健康で安心して生活できるまちづくり、住み慣れた地域で行政に支援していただき命を全うしたいとの要望に町はどのような支援を行っているのか。

問 高齢者の行動地域への足の確保として、ごかりん号、有償運送の利用状況は。

生活安全課長 ごかりん号は、高齢者割引「いばらきシニアカード」を使って、1日当たり10人が利用していることから、全体の利用者の24%が高齢者の方と捉えています。

健康福祉課長 65歳以上の有償運送利用者の平均年齢は82歳で、町外の病院・買物の利用が多く、9割を占めています。

町長 行政・社会福祉協議会・地域住民・ボランティア団体が連携して互いに支え合うまちづくりを推進していきたい。

問 福祉・健康に関する「総合相談窓口」設置の趣旨は。

健康福祉課長 気軽に相談できる場所づくりの推進をしていくものです。多様化する地域福祉に関する相談に対し、適切な相

談対応が行えるよう社会福祉士などの専門職の雇用や関係機関などとの連携を深めていきたいと思えます。

町長 行政・社会福祉協議会・地域住民・ボランティア団体が連携して互いに支え合うまちづくりを推進していきたい。



問 介護保険制度運用状況について

答 住み慣れた地域で安心して生活ができるよう介護保険の充実に取り組んでいる

歴史上未経験の超高齢化社会に突入し、介護問題は国民の老後生活における最大の不安要因になっているが。

問 町の介護保険料の負担と推移は。

健康福祉課長 2000年に制度が発足し運用を開始しております。第7期（平成30年から32年）は5,680円で、第1期の1,700円と比較して3.3倍となっています。

問 第6期計画の重点目標、介護予防の成果は。

健康福祉課長 介護予防を目的とした「シルバーリハビリ体操」は、新規参加者が年々増えており、平成29年度は2月までに2,815名が参加されています。また、運動機能向上教室では、専門職によるリハビリを受け、改善がみられる方が顕著に現れています。

問 団塊の世代が高齢化していく現在、町はどのように介護保険制度に対応していくのか。

町長 いままで以上に介護サービスの需要増加が予想されますので、町全体で支える地域社会

づくりの実現を目指して取り組んでいきたい。

